

津波被害を受けた農地に茎葉処理除草剤を年1回 散布するとヨシ、オギの発生を抑制できる（双葉町）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 放射性物質除去・低減技術開発事業

小事業名 放射性物質の吸収抑制技術等の確立

研究課題名 帰還に向けた省力的ほ場管理技術〔食料生産地域再生のための先端技術展開事業(JPJ000418)〕

担当者 三本菅猛、根本知明

I 新技術の解説

1 要旨

東日本大震災により津波被害を受けた旧避難指示区域等の農地では、帰還後の円滑な営農再開に向けて、除草剤を利用した省力的雑草管理が求められている。当該農地において、グリホサートカリウム塩液剤(東日本大震災により津波被害を受けた農地専用ラウンドアップマックスロード)を無人ヘリコプターを用いて年1回茎葉散布すると、地下根茎で繁殖し、防除が困難な多年生雑草のヨシ、オギの発生を省力的に抑制できる。

- (1) 試験は、双葉町両竹地区の保全管理開始時に多年生雑草のヨシ、オギが優占種であったほ場で実施した。
- (2) 2018年、2019年、2020年の7月中旬にグリホサートカリウム塩液剤(東日本大震災により津波被害を受けた農地専用ラウンドアップマックスロード)(希釈倍数：2倍、散布液量：10a当たり0.8L)を無人ヘリコプターを用いて雑草茎葉に散布した。
- (3) グリホサートカリウム塩液剤(東日本大震災により津波被害を受けた農地専用ラウンドアップマックスロード)の散布後は、ほとんどの多年生雑草及び一年生雑草は枯死し、翌年は多年生雑草の再生が少なく、一年生雑草が優占種となった(図1、図2)

2 期待される効果

- (1) 津波被害を受けた旧避難指示区域における除染後農地の保全管理に活用できる。

3 活用上の留意点

- (1) 除草剤を使用する際は、ラベルを確認し、農薬使用基準を遵守する。
- (2) オギ優占ほ場では多年生雑草のセイタカアワダチソウが確認された。セイタカアワダチソウは8月以降に萌芽する個体があるため、7月散布では防除が不十分となる。
- (3) グリホサートカリウム塩液剤(東日本大震災により津波被害を受けた農地専用ラウンドアップマックスロード)の無人ヘリコプターを用いた散布は、適用場所が「青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県内の東日本大震災により津波被害を受けた農地及びその農地に隣接する道路、のり面、堤とう等」に限られている。

II 具体的データ等

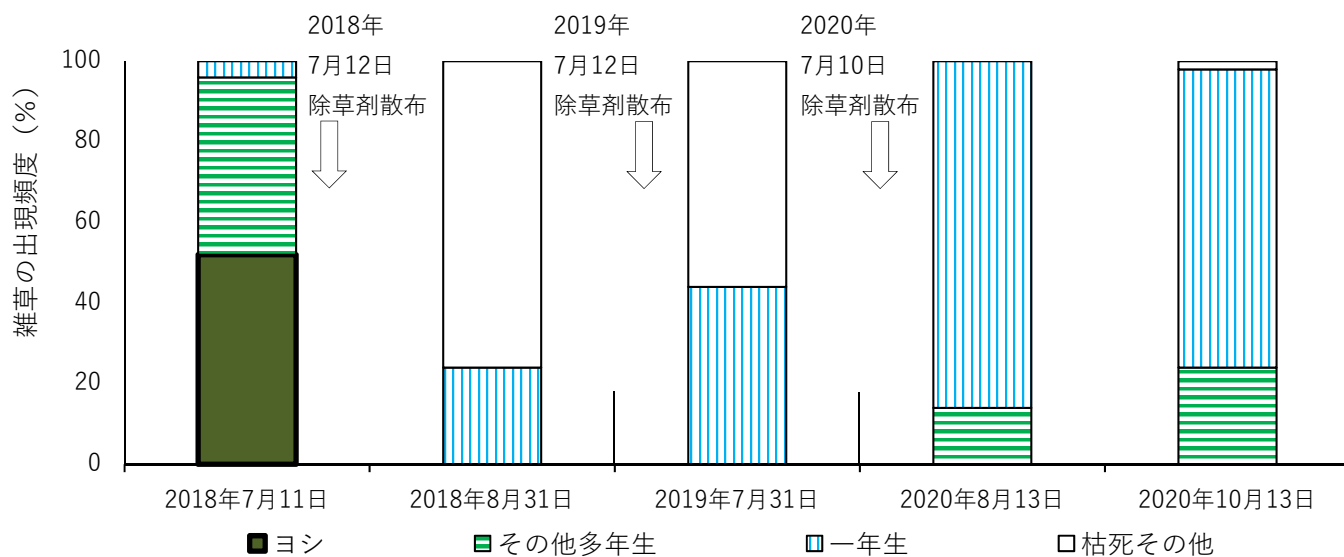


図1 ヨシ優占ほ場の保安全管理後の植生変化

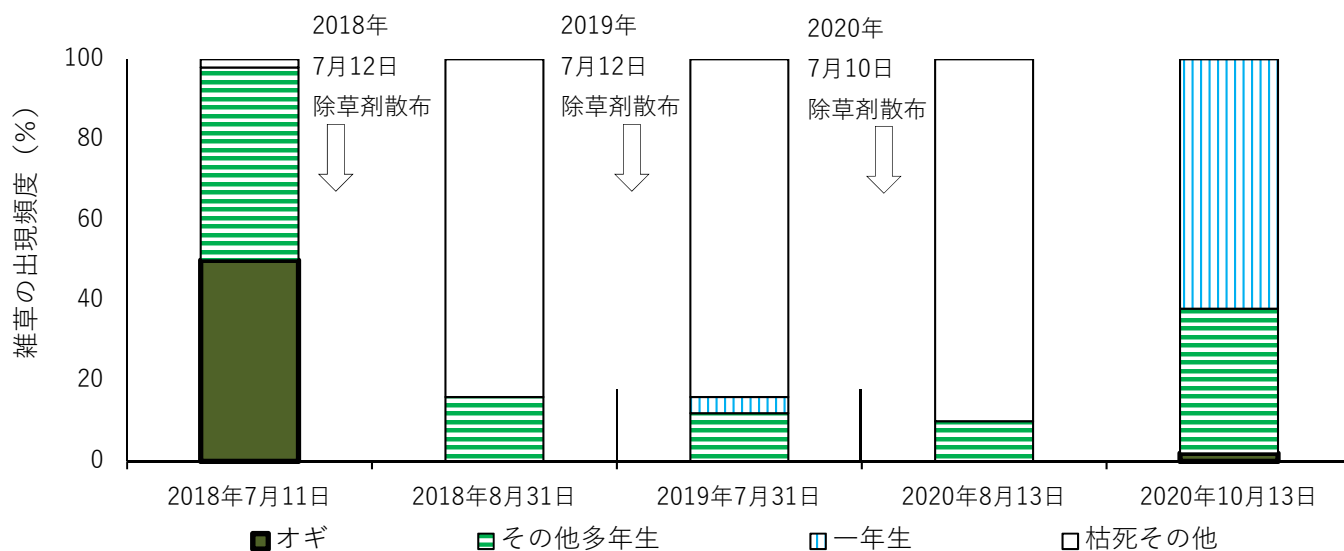


図2 オギ優占ほ場の保安全管理後の植生変化

III その他

1 執筆者

三本菅猛

2 実施期間

平成30年度～令和2年度

3 主な参考文献・資料

なし